

1. 群馬県地域環境保全基金の残高等

		金額 (単位:円)	備考
①	基金総額 (前年度末基金残高)	336,395,138	
	内訳	うち、国費相当額	168,197,569
		うち、地方負担相当額	168,197,569
		うち、負担附寄附金等	0
②	基金運用益	1,282,361	
③	その他収入	0	
④	負担附寄附金等	0	
⑤	返納額	0	
⑥	基金執行額 (処分額)	54,092,265	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高	283,585,234	(=①+②+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	141,792,617
		うち、地方負担相当額	141,792,617
		うち、負担附寄附金等	0

2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		283,585,234	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		250,480,000	
⑩	保有割合		1.132	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠

運用型：運用益見込額÷事業費 (次年度見込額)

取崩型：基金残高÷事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

3. 事業一覧

番号	事業名	合計	事業費		備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
			一般財源等	基金充当額				
1	環境学習	41,153,157		41,153,157		28%	16,512,000	54,200,000
2	生ごみ減量化取組強化	0			休止中	32%	0	4,500,000
3	尾瀬サステナブルプラン	12,939,108		12,939,108		37%	39,790,000	191,780,000
4		0						
5		0						
6		0						
7		0						
8		0						
9		0						
10		0						
11		0						
12		0						
13		0						
14		0						
15		0						
合計		54,092,265	0	54,092,265			56,302,000	250,480,000

4. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	2018年度から2027年度までの環境学習参加者を180,900人にする。	
	成果実績	56,802
	目標値	180,900
	達成度	31%

令和4年度 事業報告書

事業名	環境学習	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	平成14年度
担当部署	環境森林部環境政策課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

<目的>

感受性豊かな小中学生を中心とした「こども」に対し、教材の提供や実験等を通じた体験型の環境学習を行うとともに、地域に密着した環境学習の機会を提供し、身の回りの環境に関する問題意識を意識づけることにより、自ら環境問題を考え、行動することのできる人材を育成する。

また、大人に対しても、環境に関するイベント等への参加により環境学習の機会を提供することで、地域における環境問題に対する行動変容を促す。

<目標>

動く環境教室の受講者：年間5,000人以上、10年間で50,000人以上

その他環境学習の参加者：5年間で65,500人以上

2. 概要

・動く環境教室（エコムーブ号）や、こどもエコクラブ（群馬県事務局事業）の実施により、小中学生を中心としたこども達に体験的な環境学習の機会を提供する。

・隔年で、県内の小学校に環境学習の副読本として「こども環境白書」を作成、配布する。

・地域環境学習事業の実施により、県民が、環境との関わりについて学び、考え、行動するための機会を提供する。

・ぐんま5つのゼロ宣言実現のため、SDGsのゴール13（気候変動対策）を中心に県民や企業の環境意識の醸成と、地域環境課題の解決に向けた行動を促進する。このため、企業や県内プロスポーツチーム、市町村等と連携し、講座とワークショップによりSDGsのファシリテーター（伝道師）を養成する。

・EV展示会・試乗会の開催により、EVの価値を広くPRし、脱炭素型ライフスタイルに向けた行動変容のきっかけとしてもらう。EV展示会・試乗会の中で、脱炭素に関する説明ブースや講演会を実施し、環境学習の機会を提供する。

・EVを活用して県内観光地を巡るツアーを実施し、EVやスマートムーブ等について、実際に体験しながら学ぶ機会を提供する。

・食べ残しの持ち帰りを普及啓発するため、ドギーバッグを作成し、食べきり協力店等に配付し、食べ残しの持ち帰りに対応する店舗を増加させる。さらに店舗が、ドギーバッグとともに食品ロス削減啓発チラシをお客に配付することで、地域住民等に対する地域の環境保全に関する知識の普及啓発を図る。

3. 根拠法令等

環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律

4. 実施内容等

1 動く環境教室（エコムーブ号）

・小中学校からの要望に応じ、実験機材等を搭載した「エコムーブ号」を派遣。

・ボランティアの「環境学習サポーター」により、2校時を使い、地球温暖化、大気、水等の環境問題について、実験を中心とした体験的な環境学習を実施。

実施件数：73件、参加者数：3,425名（新型コロナウイルス感染症の影響がある中、前年より実施件数及び参加件数いずれも増加。）

・動く環境教室に参加できない小中学生向けに、授業内容を撮影して県動画サイトtsulunosuで配信。

2 こどもエコクラブ群馬県事務局運営

・毎年8月に自然観察を中心とした学習会「おもしろ体験してみ隊」を、毎年1月に県内のエコクラブの活動を発表する交流会を開催。

・学習会は50名参加、交流会は74名参加。

・年間の活動をまとめた活動事例集を1200部発行。年間5回サポーターズ・ニュースを発行。

3 環境学習の副読本として、「こども環境白書」15,000部を県内の小学校に配布（隔年）。

4 地域環境学習事業

・環境団体等から提案された企画の中から10企画を選定し、地域における県民向け環境学習講座等の実施を委託。

参加者数：709名

5 地域環境・SDGs推進事業

・企業や県内プロスポーツチーム、市町村等と連携し、SDGsのファシリテーター（伝道師）を養成するための講座やワークショップを開催。養成したSDGsのファシリテーター（伝道師）を群馬県公認環境SDGsファシリテーターとして認定し、その活動を支援。

6 EV普及促進事業

・2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」の宣言2「温室効果ガス排出量ゼロ」実現に向け、県民や企業の環境に対する意識の醸成と、地域の環境課題解決に向けた行動を促進するため、県民の脱炭素ライフスタイルの促進を目的としたイベント（脱炭素ライフスタイルフェア）を開催。

・脱炭素ライフスタイルフェアの中では、EVやV2Hだけでなく、自宅でする省エネやサステナブルファッションなど、一般家庭に取り入れやすい脱炭素に関連した商品や取組を広く取り扱った。

7 ドギーバッグ普及加速化PR事業

・2,950人分（53店舗に50個、3店舗に100個）のドギーバッグを県内飲食店で配付するとともに、4,320人分（69店舗分、うち56店舗はドギーバッグ配布店舗）の食品ロス削減啓発チラシを配付することで、地域住民等に対する地域の環境保全に関する知識の普及啓発を図った。

令和4年度 事業報告書

事業名	環境学習	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	平成14年度
担当部署	環境森林部環境政策課	終了年度	令和9年度

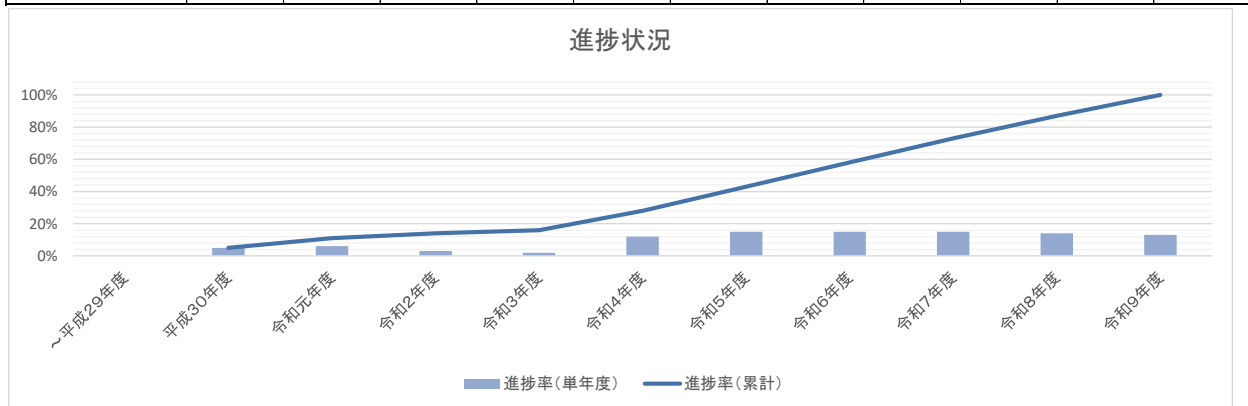
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
報償費	1,231,770		1,231,770	
旅費	0			
需用費	1,842,159		1,842,159	
役務費	142,298		142,298	
委託料	37,830,770		37,830,770	
使貨料	89,760		89,760	
備品費	0			
公課費	16,400		16,400	
合計	41,153,157	0	41,153,157	(単位:円)

年度(単位:千円)	～平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費(単年度)		2,257	4,452	2,315	2,514	41,153	12,300	12,300	12,300	12,300	5,000
事業費(累計)		2,257	6,709	9,024	11,538	52,691	64,991	77,291	89,591	101,891	106,891

6. 進捗状況等

年度	～平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率(単年度)		5%	6%	3%	2%	12%	15%	15%	15%	14%	13%
進捗率(累計)		5%	11%	14%	16%	28%	43%	58%	73%	87%	100%



令和4年度 事業報告書

事業名	尾瀬サステイナブルプラン (R2まで尾瀬学校)	新規・継続区分	継続
事項名	尾瀬ネイチャーラーニング	開始年度	平成30年度
担当部署	環境森林部自然環境課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標 (値)

<目的>

県内の小中学生に対して、尾瀬又は芳ヶ平湿地群での質の高い自然体験による環境保全の意識の醸成に、STEAM教育(※)の要素を取り入れた事業を实践し、環境保全への「自覚」「行動」を促進する。また、地域の環境保全活動の推進役ともなっているガイドに対して多様かつ数多くのガイディング機会を提供することで、担い手の確保につなげるとともに、ガイドのスキルアップにつなげ、地域の環境保全活動の推進役となる人材を育成する。

※科学、工学、技術、芸術、数学等の各教科での学習を社会での課題解決に活かしていくための教科横断的な教育

<目標>

尾瀬ネイチャーラーニングへの参加者：年間6,000人以上、尾瀬学校の実績を含めて10年間で60,000人以上

2. 概要

スタンダード (現地学習)

・県内外の小中学校、その他団体等がSTEAM教育を实践し、尾瀬等において少人数のグループで一定の要件を有するガイドを伴った環境学習を実施する場合、その経費の一部に対し補助金を交付する。

デリバリー (講師派遣)

・県内の小中学校、その他団体等が県内各地でSTEAM教育の实践による環境学習を行う場合に、講師を派遣する。

3. 根拠法令等

4. 実施内容等

県内の小中学校が尾瀬等においてガイドを伴った環境学習を実施する場合、学校の設置者(市町村・学校法人)に対してガイド料及びバス代等を補助した。(参加学校数：48校、社会教育団体数：1団体、参加人数：2,448人)

補助額は、ガイド料はガイド1名あたり20,000円を上限とし、バス代は原則1日分の借上げ料実費(ガソリン代、高速代、駐車料金含む)を補助するが、児童生徒の健康を配慮して宿泊で実施する場合は2日分実費、尾瀬内の山小屋に宿泊する場合は、ガイドの宿泊料等の経費を補助対象とした。

事業の実施にあたっては、県教育委員会で作成した学習プログラムを参考に、学校でガイドによる事前学習を行い、当日は児童生徒約8人に対し一人のガイドを配置し、きめ細やかな解説を行う。学習プログラムでは事後学習にも触れ、教育の一環として学習効果が高まるよう配慮している。

令和4年度 事業報告書

事業名	尾瀬サステナブルプラン (R2まで尾瀬学校)	新規・継続区分	継続
事項名	尾瀬ネイチャーラーニング	開始年度	平成30年度
担当部署	環境森林部自然環境課	終了年度	令和9年度

5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
報償費	65,000		65,000	
旅費	0			
需用費	723,800		723,800	
役務費	250,183		250,183	
委託料	472,829		472,829	
使賃料	462,080		462,080	
備品費	776,390		776,390	
負担金・補助金	10,188,826		10,188,826	
合計	12,939,108	0	12,939,108	(単位：円)

年度 (単位:千円)	~平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費 (単年度)			39,500	16,024	3,015	12,939	38,356	38,356	38,356	38,356	38,356
事業費 (累計)		0	39,500	55,524	58,539	71,478	109,834	148,190	186,546	224,902	263,258

6. 進捗状況等

年度	~平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率 (単年度)		15%	14%	3%	1%	4%	13%	12%	13%	12%	13%
進捗率 (累計)		15%	29%	32%	33%	37%	50%	62%	75%	87%	100%

